

LGBT
Lesbian Gay Bisexual Transgender

多様な性を考える映画祭

The Fifth Aomori International LGBT Film Festival

第5回青森インターナショナルLGBTフィルムフェスティバル

刑法175条 / Paragraph 175

青森初上映

2010.7.3(土)
13:00~

12:30 開場 18:55 終了予定
アウガ5Fカダール
AV多機能ホール

〒030-0801 青森市新町1-3-7(JR青森駅前)

前売券販売所

■青森市 / 青森インターナショナル LGBT
フィルムフェスティバル実行委員会 (☎
090-6459-5136) / 青森松竹アムゼ (☎
017-731-1177) / サンロード青森 1F
総合サービスカウンター(☎017-722-81
11) / 成田本店しんまち店プレイガイド
(☎017-723-2431)

■弘前市 / 日弘楽器 (☎0172-34-4821)
遠方の方には郵送いたします。詳しくはウェブサ
イトをご覧ください。

前売券 **¥2,000**

チケットは通し券のみです。全席自由席。
当日券は映画祭会場受付にて残席に応じ
て販売いたします。当日券**¥2,500**

●学割チケット **¥1,500**

チケットは開催日当日に販売いたします。受付にて
学生証をご提示ください。チケットのご予約は下記
お問い合わせ先またはウェブサイトからお申し込み
ください。(学割チケットの前売りはいたしません
ので、ご注意ください。)

映画祭終了後 懇親会開催

映画の感想などを語り合いましょ！

■会場 / 青森グランドホテル JR青森駅前
カフェテラス「パティオ」2F
■参加費 / ¥2,500 ※食事・飲物込
お申し込みはウェブサイトまたはお電話で！

お問い合わせ

青森インターナショナルLGBT
フィルムフェスティバル実行委員会
青森市長島2-1-2 新藤ビル6F
NPO推進青森会議事務局内

☎090-6459-5136

※留守番電話の場合があります。メッセージを残
していただければ、こちらからご連絡いたします。

info@aomori-lgbtff.org

※会場内、会場付近での写真撮影は固くお断り
いたします。※上映中の入場はできません。
ので、予め開演時間等をご確認ください。(上映
が始まりますと会場内が暗くなり、足元が危険
です)※会場内での飲食はできませんので、ご
了承ください。ただし、アウガ5F会場前は、
ベンチが設置されている館内公園となっております
ので、飲食可能です。※再入場の際はチケットの
半券を係員へご提示ください。

主催 / 青森インターナショナルLGBT
フィルムフェスティバル実行委員会
助成 / 公益信託 青森県ボランティア基金
「青い森ファンド」

協力 / @ffあおもり映画祭実行委員会
東京国際レズビアン&ゲイ映画祭
後援 / 特定非営利活動法人 NPO推進青森会議
山形国際ドキュメンタリー映画祭



ナチスによる迫害が、ユダヤ人だけではなく
同性愛者にもおよんでいたことはあまり
知られていない。この映画は同性愛者を差
別するドイツの“刑法175条”によって迫
害を受けたゲイ男性たちとひとりのレスビ
アンについて、歴史に隠された一面を聞き
出している。ハインツは強制収容所での体
験を告白し、フランス人ピエールは自分の
ボーイフレンドが虐殺されるのを目撃し、
ユダヤ人のガドは地下抵抗組織の指導者と
しての経験を語る。

■監督: ロブ・エプスタイン、ジェフリー・フリードマン ■製作国: USA ■製作年: 1999年
■上映時間: 81分 ※日本語・英語字幕あり/English and Japanese Subtitles

おばけのマリコローズ / Mariko Rose the Spook

東北初上映



バイト先のかわいい女の子に思いを寄せる女
の子、ネギ子。しかしそのハニーには彼氏
が!?…落胆するネギ子の前に現れたのは、明
治の昔からそのアパートに棲みつく幽霊のマ
リコローズだった。ローズとネギ子は恋愛成
就♥大作戦を展開するのだが、事態は逆にや
やこしくなっていく。小林でび監督みずからが
歌って踊る、ゲイで！ホラーで！ちょっぴり
せつないラブストーリー。

■監督: 小林でび ■製作国: 日本
■製作年: 2009年 ■上映時間: 66分
※英語字幕あり/English Subtitles

青森インターナショナルLGBTフィルムフェスティバル
5周年記念特別企画 プレオープニング上映会

『おばけのマリコローズ』

7.2(金) 19:00~ 18:30開場
前売券/¥800 当日券/¥1,000

●会場 / 青森松竹アムゼ サンロード青森B1F ☎017-731-1177

7/2,3両日ともに
小林でび監督の
舞台挨拶が
あります!



※前売券は左記販売所にて
お買い求めください。

ミウの歌~Love of Siam~ / Love of Siam

東北初上映

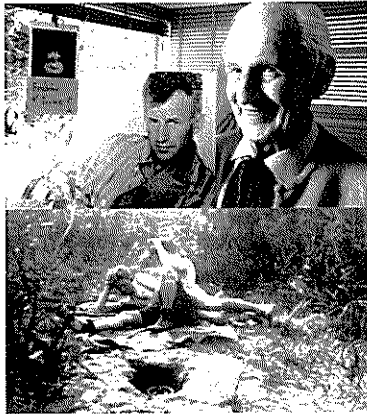


幼なじみの2人の少年ミウとトン。子ども
の頃は親友だったが、トンの姉のタンが失
踪したのをきっかけにトン一家はどこかへ
引っ越してしまう。その後、高校3年生に
なった二人は若者の街「サイアム・スクエ
ア」で偶然再会する。トンはいまだに失踪
した姉のことで苦しみアルコールに走る父
親や家族のことで悩み、ミウは所属するバ
ンドでラブソングが作れないことで悩んで
いた。再会後に接近する二人。深い友情な
のか、それとも恋とは違うのか?戸惑う
二人と、それぞれ悩みを抱えている家族や
仲間たちを通して、愛とは何かを問う。

■監督: チューキアット・サクウィーラクン ■製作国: タイ ■製作年: 2007年 ■上映時間: 158分
※日本語字幕あり/Japanese Subtitles

① 刑法 175 条 / Paragraph 175

13:00~14:25



【監督のことば】 ロブ・エプスタイン&ジェフリー・フリードマン

アメリカユダヤ委員会が1993年に行った調査によれば、ナチスが同性愛男性を見分けるための印としてピンクトライアングルを着けさせていたということはおろか、ナチス政権のもとでゲイが弾圧されていたことすら、知っているのはイギリスでは成人の約半数、アメリカではわずか4分の1だという。『刑法175条』では、これまで映画で扱われたことがなく、歴史の本ですらめったに言及しようとしなかった歴史に斬り込んでいった。何万人もの人々が迫害され殺害されたというのに、なぜ記録から抹殺され続けてきたのか？

私たちがこの問題に関心をいだいたのは、まずは私たち自身がゲイ男性でありユダヤ人でもあるから。私たちにあって、当時についての証言ができる人たちが生きている間にできる限りの記録を残しておくことは、切迫した必要性のあることだった。また、映画作家の立場からいえば、このテーマの曖昧さに魅かれた。虐待される同性愛者、同性愛のレジスタンス闘士、同性愛のナチス及びシンパが同時に存在していたのだ。また、ナチスは一貫して同性愛者を迫害していたが、一方で敵陣からは、ひとりのナチス高官が同性愛者であることを理由にナチス全体が同性愛の巣窟だというプロパガンダを流されてもいたのである。

ナチスの迫害から逃れたゲイはかなりの数にのぼったが、彼らはどうやって生き延びたのだろうか？英雄と悪人の境目は何なのか？そして、どうして私たちは人間の経験にグレーゾーンがあることに不安になるのだろうか？

② おばけのマリコローズ / Mariko Rose the Spook

14:40~16:00



ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2010 ファンタランド大賞イベント部門 受賞
ひろしま映像展2010 グランプリ・演技賞 受賞

小林ひび監督よりメッセージをいただきました。

2年ぶりです！青森のみなさま、お元気でいらっしゃいましたか？

一昨年『セレブ寿司』という作品をこの映画祭で上映していただいた時、僕は秘かに誓ったんです。「よし、新作のコメディ映画を撮ってココに戻って来よう！」それが実現して今、すごく嬉しいのです。しかも戻ってきてみたら、今年の青森インターナショナルLGBTフィルムフェスティバルは、映画館でのプレ上映があったりとか、なんだかパワーアップしてるじゃないですか！素敵すぎます。素敵なムーブメントです。

今回、僕が持ってきた新作『おばけのマリコローズ』は“恋愛の映画”です。「好き」という感情を自分自身でコントロールする事が出来ずに、好きな相手の前で右往左往してしまう話です。恋愛って素敵、でも苦しい。そんな時、ついバカな行動しちゃいませんか？僕はしちゃいます。で、家に帰ってから「ああああ」とか呻くんです。不思議です。でもそんなこんなも含めて恋愛って、人生って素敵だと思うんです。この映画のマリコローズっていう幽霊なんて、死んだ後もそんなこと繰り返してるんだから…あはは。

単純に楽しんでいただきたくて、この『おばけのマリコローズ』を撮りました。「ほかーん」と観ていただけたら、そして「ほんわか」していただけたら最高です。

僕たぶん、映画祭会場あたりをウロウロしてると思うんで、みなさん、見つけたら気軽に声をかけてください。ではでは、楽しい映画祭を。

小林ひび



③ ミウの歌 ~Love of Siam~ / Love of Siam

16:15~18:55



【タイ】 2007年度スパンナホン映画大賞 作品賞・監督賞・助演女優賞 受賞

2007年度バンコク映画評論家連盟映画大賞 作品賞・監督賞・主演女優賞・助演女優賞・脚本賞・音楽賞 受賞

2007年度スター・エンターテインメント大賞 作品賞・監督賞・主演女優賞・助演女優賞・脚本賞・音楽賞 受賞

【ブラジル】 第16回FESTIVAL MIX BRASIL Audience Award 受賞

【日本】 大阪アジア映画祭2009 観客賞 受賞

2007年に一大センセーションを巻き起こしたヒット作が日本で2009年6月、ついに劇場公開された。タイではアクションやホラーがヒットする中でドラマは流行らないといわれた。そんな中、タイ映画界の新星チューキアット・サクウィーラクン監督が、学生時代から4年の歳月をかけ構想したこの作品は製作会社から期待されていなかった為、高額予算をかけずに制作された。有名な俳優を主役に迎えず、ほぼ新人を起用。主人公のミウ役のピッチに関しては監督の学生時代の後輩で全くの素人だったのだ。

しかし、『ミウの歌 ~Love of Siam~』は本国タイでの劇場公開後、口コミで評判が広がり、若者から年配の方までに感動の嵐を巻き起こし、作品や出演者、そして監督を含め高い評価を得た。「正直、ここまでの大きな話題となるとは予想していなかった」と監督は当時を振り返る。監督はまだ20代というその瑞々しい感覚で、監督、脚本、そして、映画挿入歌のほとんどを作詞作曲し、映画もオリジナル・サウンド・トラックも大ヒットしたのだ。オリジナル・サウンド・トラックはタイ国内のCDショップでは売り切れて手に入らないことも話題になった。感動の熱は今でも冷めやらず、タイ国内ファンだけでなくアジア各国、アメリカなどの海外まで広がっている。

©sahamongkol film international